



啓明学院高等学校

Hands and hearts are trained to serve
both man below and God above.

2023年度 入学試験問題 【 作 文 】

[試験時間 50 分]

- ※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- ※ 句読点はすべて字数に含みます。

受 験 番 号

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

機械翻訳があれば外国語学習なんて要らなくなる、と言う人がいる。はたして本当だろうか。

外国語を自動的に翻訳する人工知能（AI）技術は確かに実用化されつつある。だが、ネットで英語から日本語への翻訳結果を眺めると、首をかしげる誤訳も少なくない。

一般論としては、コンピュータはそもそも語句の意味を理解できないし文脈も捉えられないのだから、難解な長文の機械翻訳は困難だ、ということになる。まあ観光旅行の道案内など、定型的な短文なら大丈夫だろう。だが、外交やビジネス、国際会議などの場では、機械翻訳に任せきりにするのはムリだ。

つまり、本格的な国際交流のためには、今後も外国語学習は必須なのである。機械翻訳は外国語学習を無用にするのではなく、むしろ逆に活性化させる。高度な辞典と同じで、代替技術ではなく補強技術なのである。

外国語学習というと、日本人はとかく英語の勉強ばかりを考えがちだ。だがここで発想を転換し、日本で暮らす外国人の日本語学習に機械翻訳を活用できないかと考えてみてはどうだろう。

ブラジル人や中国人、韓国人など在外日本人は多いし、近年はベトナムをはじめ、東南アジアからの技能実習生も増えてきた。背景には、日本の労働力人口の減少がある。彼らを単なる安い労働力と見なし、酷使するだけなら、移民問題で悩む欧米先進国と同じ袋小路にはまる。困った事態になるのは明らかだ。

母語が日本語でなく異なる文化的背景をもつ人々、さらに日本生まれの彼らの子供たちと、いかに上手に共存していけるか。――鍵を握るのは言語学習だ。

共存のやり方には「ルツボ型」^{※1}と「サラダボウル型」^{※2}の二つがある。前者は主流文化への融合をはかる統一主義で、後者は主流文化を共通の受け皿にしながらも各々の固有文化を尊重する多元主義。前者なら日本語と外国語間の機械翻訳だけですむが、後者では異なる外国語間の機械翻訳も有用となるだろう。

世界の現在の価値観としては圧倒的に後者が優勢だ。とはいえ歴史的に見ると、サラダボウル型の文化体験の乏しい日本ではルツボ型になりがちではないか。われわれは短期の客人は大切にしながら、長く日常生活を共にするとすると、細かい違いに神経質で異文化に寛容ではない。だからこそ、相互理解のために言語学習が不可欠なのだ。

ここで考えてみよう。一体われわれは自分の母語の基準を大切にしているだろうか。

日本語の変化は激しい。たとえば数十年前には「（このキノコは）食べれる」と言う人はいなかった。「食べられる」が正しかったのだ。可能と尊敬を区別できて便利だという意見もあり「ら」を省く人も多いが、年長者には違和感がある。

文法的变化に加えて、語彙や表現上の変化も大きい。近ごろの女性は「これから行くわ」とか「ええ、そうよ」の代わり

に「これから行くよ」とか「うん、そうだよ」と言うのが普通である。女性特有の表現の排除はジェンダー平等の立場から望ましいのかもしれない。

だが男女の区別撤廃について日本より進んでいるフランスでは、言葉についてはかなり保守的である。何しろ、あらゆる普通名詞に男女の区別があり、外国人学習者を悩ませているのだが、一向に改革の兆しはない。アカデミー・フランセーズの権威が「正しいフランス語」の純度を守っているのだ。

ひるがえって日本ではどうか。基準をつくるのは、文化や国語を論じる有識者の審議会ではなく、テレビの人気タレントのおしやべりなのだろうか。よくわからない。

機械翻訳は用例をベースに翻訳するが、出力が一種の基準になることは確かだ。いずれにしてもAIの機械翻訳は、経済活動だけでなく、言語の基準をつくり、学ぶ言葉の内容とも深く関わることになる。

機械翻訳の実用化をきっかけに、言語学習のあり方について考えてみたい。

（西垣通 「科学技術と人間」⑨ 毎日新聞夕刊 二〇二三年十一月二日）

※1 種々のものが入りまじった状態のたとえ。

※2 それぞれが混ざり合わずに独立した形で共存している状態のたとえ。

問題一 本文を百字以内で要約しなさい。

（通常の原稿用紙の使い方とは異なりますが、解答题用紙の最初マスから書き始め、最後まで改行せずに書き進めること）

問題二 本文に対するあなたの意見を、「翻訳」「人工知能」という二語を必ず用いて四百字以内で述べなさい。

（通常の原稿用紙の使い方とは異なりますが、解答题用紙の最初マスから書き始め、最後まで改行せずに書き進めること）

入学試験解答用紙

【作文】

(二〇一三年二月一〇日実施)

受験番号

問題一 本文を百字以内で要約しなさい。

(通常の原稿用紙の使い方とは異なりますが、解答用紙の最初のマスから書き始め、最後まで改行せずに書き進めること)

得点

問題二 本文に対するあなたの意見を、「翻訳」「人工知能」という二語を必ず用いて四百字以内で述べなさい。

(通常の原稿用紙の使い方とは異なりますが、解答用紙の最初のマスから書き始め、最後まで改行せずに書き進めること)

5

10

15

20